

ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任

2022年度の担当科目一覧表

科目区分 (教養/専門/教職)	科目名	種別 (必修/選択)	開講時期	受講者数
専門	日本語日本文学入門	選択	前期	15名
専門	文章表現	選択	前期	36名
専門	ビジネス技能演習	選択	前期	20名
専門	日本語学	必修	前期	49名
専門	卒業研究1	必修	前期	8名
専門	卒業研究2	必修	後期	8名
教養	太宰府地域学	選択	前期	27名
専門	日本語表現	選択	後期	40名
教職	国語科教育法	選択	後期	5名
専門	日本語学概論	必修	後期	42名
専門	日本語学	必修	後期	1名
教養	日本語と文化	選択	後期	24名
教養	キャリアプログラム	必修	後期	43名
専門	プレゼミナール1	必修	前期	8名
専門	プレゼミナール2	必修	後期	8名

*科目区分:「教養」、「専門」、「教職」の3つから指定すること。

*種別:「必修」、「選択」の2つから指定すること。なお、選択必修は「選択」とする。

2. 教育の理念

日本語を観察し、日本語への知識を深めることを通して、柔軟な思考能力の育成、言語運用能力の習熟とそれに伴うコミュニケーション能力の向上を教育の目標としている。

日本語学の基本は、日本語へ興味関心を抱き、日本語をよく観察することである。専門分野の科目においても、身近な日本語の観察を入り口にし、学生の素直な観察を共有することから展開することで、多面的な立場に立った柔軟な思考能力を育成することを心掛けている。

また、一部の科目では言語資料の大規模なデータベース（コーパス）を利用した調査方法や、Excelでのデータ集計方法の指導を取り入れることで、現代に求められるデータ処理能力を育成することも教育の目標のひとつとしている。

以上の通り、専門分野の学びを通して、学生の広い進路に役立つ実用的な能力の育成を目指している。

3. 教育の方法

まず、講義を主にした専門科目として、「日本語学概論」を取り上げて述べる。

当該科目においては、日本語学の基礎知識として、語彙と表記を中心に展開した。毎時、予

習プリントを課し、身近な現代語を題材に取り上げることで、興味関心を抱かせる工夫を行い、教員が作成した授業プリントをもとに、専門知識の習得を図った。学生間での意見交換を多く取り入れ、多くの学生に発言の機会を与えることで能動的な学びとなるよう心掛け、FWJOnlineを通じた授業コメントとそのフィードバックを行うことで、学生の理解を促した。

当該の「日本語語学概論」は、「日本語学」を引き継ぐ科目であり、「日本語学」においても同様の取り組みを行った。また、教養科目である「日本語と文化」も講義を主にした科目であるが、教養科目であることから、他学科の学生も楽しく学べる工夫として、多くの資料の画像を紹介し、観察させることを通して、日本語の歴史を学ぶことを目指した。毎時、教員が作成したPPTスライドを使用して授業を行い、適宜、外部サイトに公開されている日本語資料にアクセスするなどし、日本語に興味を持たせることを第一に授業を行った。

また、「ビジネス技能演習」においては、言語資料の大規模なデータベース（コーパス）を利用した調査方法や、Excelでのデータ集計方法の指導を行った。教員による基本操作の指導ののち、課題を与え、FWJOnlineを用いた課題提出を繰り返すことで、データベースやExcelの操作に慣れるよう計画した。各自の作業の時間には、取り残される学生がいないように、声掛けを行うとともに巡回し、個人指導を行った。講義後半（第13・14回）には、各自のテーマでExcelで整理した調査結果をPPTスライドにまとめ、口頭発表する機会を設けた。作業を個人で行うことで、「どのようにして必要な情報にアクセスするか」「集めた情報から何を見出すことができるか」「結果をどのように提示すれば効果的か」といったことについて、各自が考え、気づかせるように工夫した。

実技を伴う科目としては、「文章表現」もあるが、こちらは市販のテキストを採用し、練習問題を多く行い、それに対する解説を行うという方法で、能力の定着を図った。工夫した点としては、毎時、学生に発言の機会を与え、授業参加を促したことと、各回コメント提出させ、それに対してフィードバックを行うことで、学生一人一人の理解を促したことがあげられる。

4. 教育の成果

講義を主とした科目においては、授業内で実施している授業コメントに、日本語への新鮮な発見の驚きや、それに伴う興味関心が寄せられた。予習課題として、一部風景の中の日本語の撮影（例：方言による公告の撮影、ローマ字で書かれた看板の撮影など）も行ったが、日常生活にある日本語が日本語学につながるという実感は、感慨深い様子であった。

「ビジネス技能演習」は、情報処理士の資格に関わる科目であり、学生のPCスキルの向上につながったと考えている。また、「卒業研究」の調査へとつなげることで、データに基づく考察を行うことが出来た様子が、提出された卒業論文や卒業論文発表会などで確認された。

5. 今後の目標

講義系の科目については、より分かりやすい授業資料の作成が課題である。学生からのコメントをもとに、伝わりづらかった点を改め、より学生に寄り添った資料になるよう、改善を進めていく。

また、今年度は、学生の個人対応と授業の進行が両立しない場面があった。学生への指示をより明確にすること、授業の計画にゆとりを持たせることなどを検討し、学生一人ひとりをおろそかにしない授業を計画していく。

「文章表現」や「日本語表現」など、文章指導の科目においては、受講人数が多いため、課題の添削を毎時間行うことまでは手が及ばなかった。小テストの実施などを行い、簡易的にでも、各回の理解度を図る手段を検討していきたい。

6. 根拠資料（準備しておく）

- シラバス
- 授業資料
- 授業評価アンケート結果
- 授業改善計画書
- その他
 - ・ 各科目の提出課題：評価後、学生へ返却
 - ・ 「ビジネス技能演習」：学生が作成した発表資料（FWJConline にて提出）
 - ・ FWJConline 各科目のコース